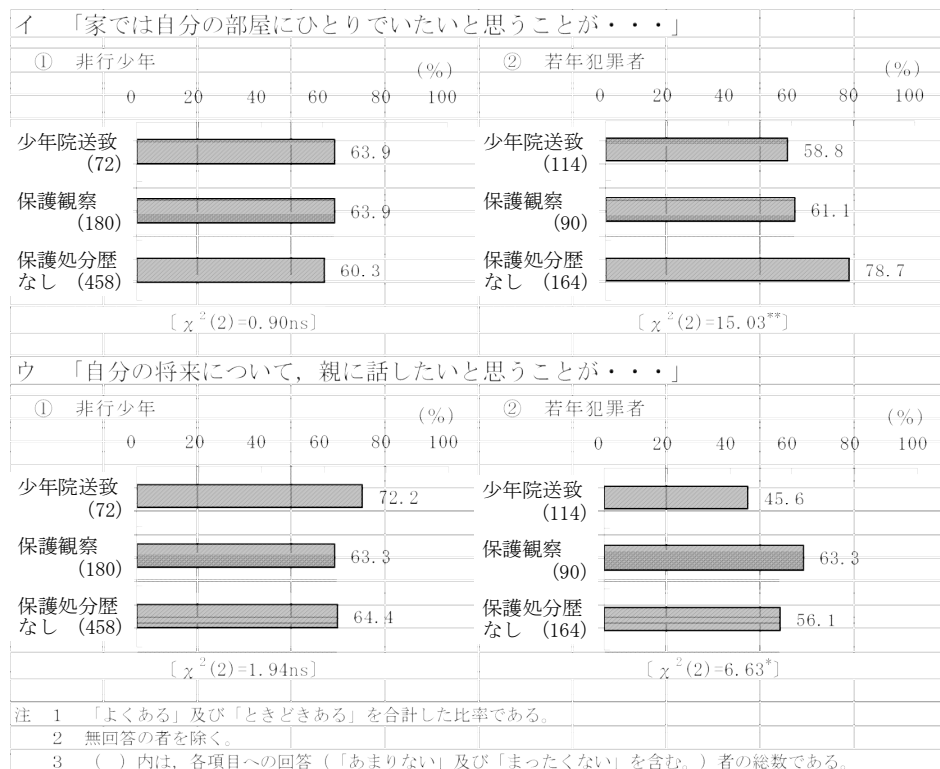


2-1-6図 家族との関係（保護処分歴別）



## 2 交友関係

Q3 あなたは、友達づきあいにどのくらい満足していますか。

次の中から、ひとつだけ選んで番号を記入してください。

1 満足 2 やや満足 3 どちらとも言えない 4 やや不満 5 不満

### (1) 友人関係に対する満足度

#### ア 経年比較等

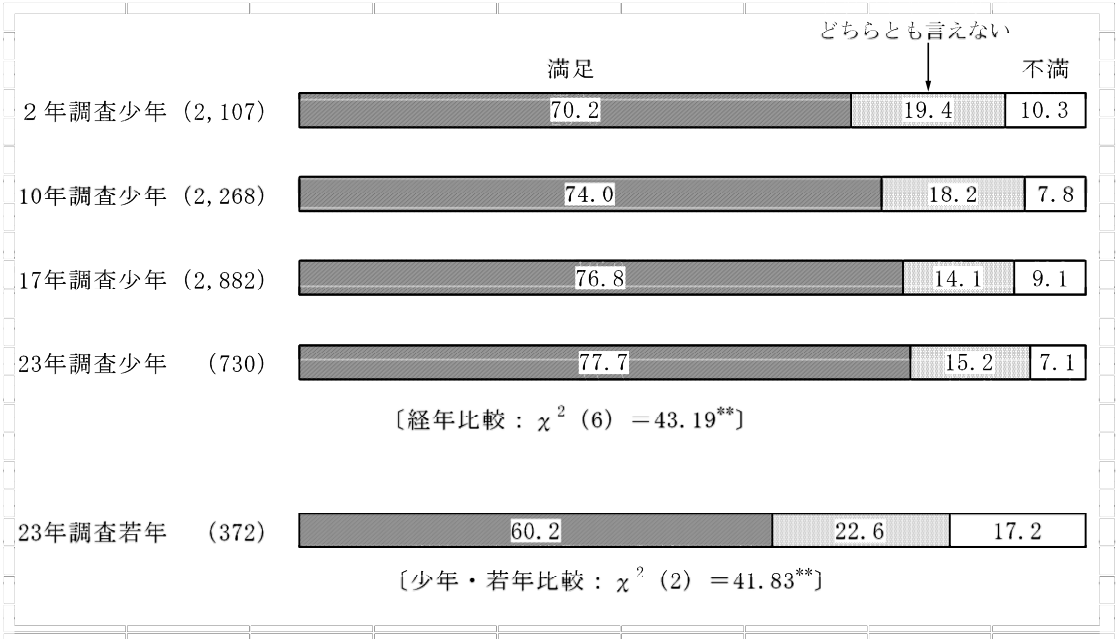
2-2-1図は、友人関係にどのくらい満足しているかについての回答を、「満足」（「満足」及び「やや満足」の合計。以下同じ。）、「どちらとも言えない」、「不満」（「やや不満」及び「不満」の合計。以下同じ。）の3カテゴリーに統合し、その構成比を経年比較したものである。「満足」と回答した者の構成比は、漸増傾向にあり、2年調査では70.2%であったところ、今回調査では77.7%であった。

今回調査において、非行少年と若年犯罪者の「満足」と回答した者の構成比を比較すると、非行少年に比して、若年犯罪者は有意に低く、60.2%にとどまり、「どちらとも言えない」、「不満」と回答した者の構成比は、いずれも有意に高かった。

また、非行少年、若年犯罪者のそれぞれについて、男女の差を見たところ、いずれにお

いても、男女で有意差は見られなかった（それぞれ、 $\chi^2(2) = 3.71ns$ ,  $\chi^2(2) = 3.47ns$ ）。

2-2-1図 友人関係に対する満足度（経年比較等）

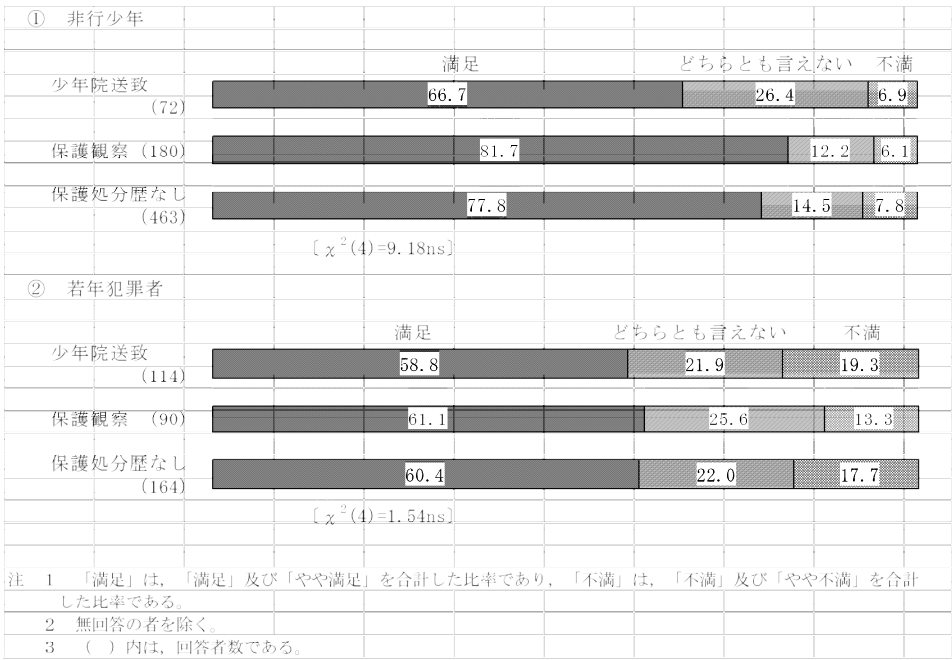


注 1	「満足」は、「満足」及び「やや満足」を合計した比率であり、「不満」は、「不満」及び「やや不満」を合計した比率である。
2	無回答の者を除く。
3	( ) 内は、回答者数である。

イ 保護処分歴別の比較

2-2-2図は、今回調査における非行少年・若年犯罪者別に、友人関係に対する満足度を、保護処分歴別に見たものである。回答に有意差は見られなかったものの、非行少年において、「満足」と回答した者の構成比は、少年院送致歴を有する者では66.7%と、保護観察歴を有する者より15.0pt、保護処分歴のない者より11.1ptそれぞれ低かった。

2-2-2図 友人関係に対する満足度（保護処分歴別）



(2) 友人関係の不満の理由

Q3b 「やや不満」、「不満」ということですが、それはどういう理由からですか。

次の中であてはまるものを、いくつでも選び番号の欄に○をつけてください。

1

気の合う友達がいらない

2

お互いに心を打ち明け合うことができない

3

自分よりも他の人と仲良くする

4

仲間はずれにされる

5

自分のすることに口出ししてくる

6

グループの中のまとまりが悪い

7

自分のことをわかってくれない

8

自分のいうことが通らない

9

つき合っても張り合いがなく自分が向上しない

10

自分に冷たい

11

好きでもないのにつき合わなければならない

12

その他 ( )

※本問は、Q3で「やや不満」又は「不満」と回答した者に対してのみ質問している。

## ア 経年比較等

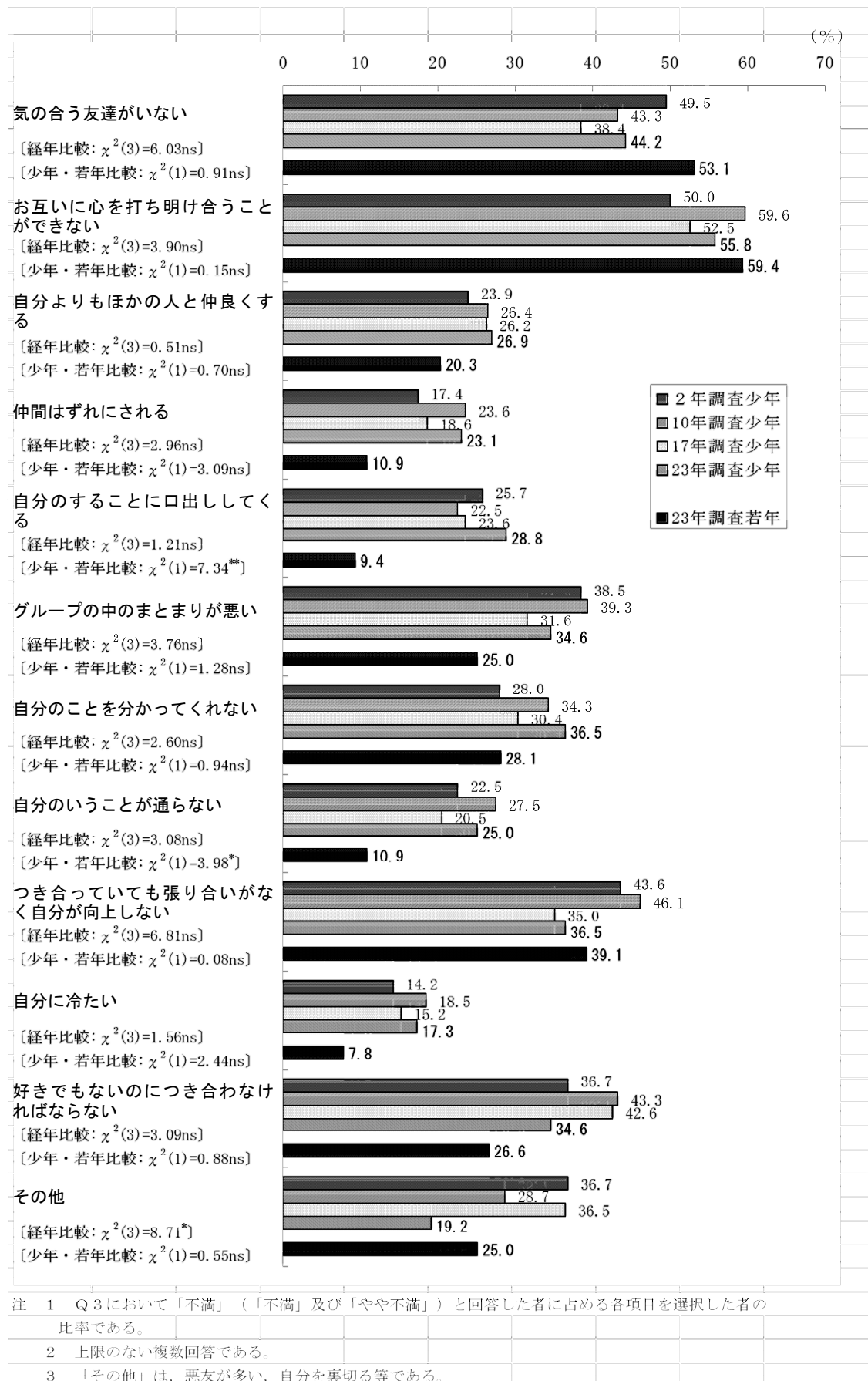
2-2-3図は、友人関係での不満の理由として、各項目を選択（複数回答）した者の比率（以下この項において「選択率」という。）を経年比較したものである。

過去3回の調査において選択率が最も高かった「お互いに心を打ち明け合うことができない」は、今回調査においても最も選択率が高かった（55.8%、17年調査に比して3.3pt上昇）。今回調査において2番目に選択率が高かったものは、17年調査において3位であった「気の合う友達がいらない」（44.2%、同5.8pt上昇）、3番目は同率で「自分のことをわかってくれない」（36.5%、同6.1pt上昇）及び「つき合っているけど張り合いがなく自分が向上しない」（36.5%、同1.6%上昇）であった。なお、17年調査において2位であった「好きでもないのにつき合わなければならない」（34.6%）は、8.0pt低下しているが、総じて、信頼感が薄く、建設的な関わりが少ない関係を不満としていることがうかがえる。

また、今回調査において、非行少年・若年犯罪者の別に見ると、非行少年において選択率が有意に高かったのは、「自分のすることに口出ししてくる」、「自分のいうことが通らない」の2項目であった。若年犯罪者において選択率が有意に高かった項目はなく、非行少年は、自己の言動を否定する友人への不満を有していることがうかがえる。

さらに、非行少年、若年犯罪者それぞれについて、男女の差を見たところ、非行少年においては、「仲間はずれにされる」の選択率が、女子において、男子より顕著に高く（男子19.1%、女子60.0%、 $\chi^2(1) = 4.25^*$ ）、若年犯罪者においては、「つき合っているけど張り合いがなく自分が向上しない」について、男性では43.1%の者が選択したが、女性で選択した者はいなかった（ $\chi^2(1) = 4.24^*$ ）。友人関係について、非行少年の女子においては、男子に比して、仲間集団への所属が、若年犯罪者の男性においては、女性に比して、自己の成長に有益であることが、それぞれ重要視されていると推察される。

2-2-3図 友人関係に対する不満の理由（経年比較等）



## イ 保護処分歴別の比較

今回調査において、非行少年、若年犯罪者のいずれにおいても、友人関係に対する不満の理由について、保護処分歴による有意差はなかった。

### (3) 友人との関係

Q4 あなたと友達との関係について、次の中から当てはまるものを、いくつでも選び、番号の欄に○をつけてください。

- 1 悲しいことがあったら話を聞いてもらう
- 2 相手にけっこう気をつかっている
- 3 あまり深刻な相談はしない
- 4 つき合っているのは、何か得るものがあるからだ
- 5 お互いに張り合う気持ちがある
- 6 けんかをし合える
- 7 何も言わなくても、分かり合えている
- 8 お互いの性格は裏の裏まで知っている
- 9 自分のすべてをさらけ出すわけではない
- 10 お互いに悪いところは悪いと言い合える
- 11 一緒にいるときでも別々のことをしている

## ア 経年比較等

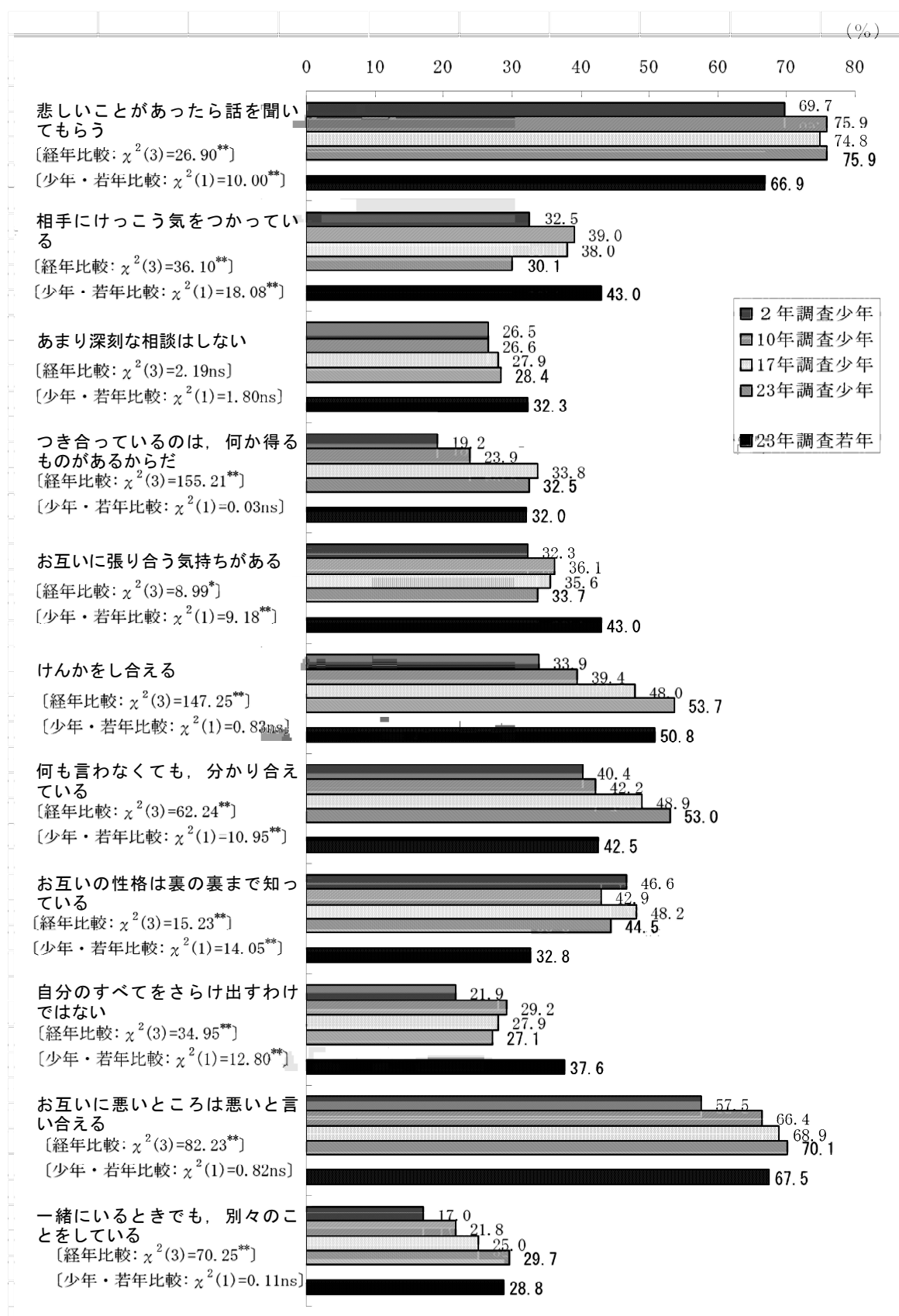
2-2-4図は、友人との関係で当てはまるものについて、各項目を選択（複数回答）した者の比率（以下この項において「選択率」という。）を、経年比較したものである。今回調査において、選択率が最も高かったものは、「悲しいことがあったら話を聞いてもらう」（75.9%）であり、次いで「お互いに悪いところは悪いと言い合える」（70.1%）であった。これらの上位2位の項目は、17年調査における上位2位の項目とそれぞれ同じであり、今回調査で3位から5位に入っている項目についても、順位は異なるが、17年調査における3位から5位の項目と同じであり、友人との関係の認識に大きな変動はないことがうかがわれる。

なお、今回調査において、非行少年と若年犯罪者の選択率を比較すると、若年犯罪者において、選択率が有意に高いものは、「相手にけっこう気をつかっている」（非行少年30.1%、若年犯罪者43.0%）、「お互いに張り合う気持ちがある」（同33.7%、43.0%）、「自分のすべてをさらけ出すわけではない」（同27.1%、37.6%）であり、逆に、非行少年において、選択率が有意に高いものは、「悲しいことがあったら話を聞いてもらう」（同75.9%、

66.9%),「何も言わなくても、分かり合えている」(同53.0%, 42.5%),「お互いの性格は裏の裏まで知っている」(同44.5%, 32.8%)であり、若年犯罪者においては、非行少年に比して、友人との間に心理的距離のある状態であることがうかがえる。

さらに、非行少年、若年犯罪者それぞれについて、男女の差を見たところ、非行少年において、女子が男子に比して有意に高かった項目は、「悲しいことがあったら話を聞いてもらう」(男子73.6%, 女子93.1%,  $\chi^2(1) = 15.99^{**}$ ),「けんかをし合える」(同50.1%, 80.5%,  $\chi^2(1) = 28.45^{**}$ ),「何も言わなくても、分かり合えている」(同51.0%, 67.8%,  $\chi^2(1) = 8.69^{**}$ ),「お互いの性格は裏の裏まで知っている」(同43.1%, 55.2%,  $\chi^2(1) = 4.54^*$ ),「お互いの悪いところは悪いと言い合える」(同68.7%, 80.5%,  $\chi^2(1) = 5.03^*$ ),「一緒にいるときでも別々のことをしている」(同28.0%, 42.5%,  $\chi^2(1) = 7.75^{**}$ )であり、男子が女子に比して有意に高い項目はなかった。若年犯罪者においては、男性において、「相手にけっこう気をつかっている」(男性44.3%, 女性22.7%,  $\chi^2(1) = 3.93^*$ ),「お互いに張り合う気持ちがある」(同45.1%, 9.1%,  $\chi^2(1) = 10.98^{**}$ )が、それぞれ女性に比して有意に高く、女性においては、男性に比して有意に高い項目はなかった。非行少年においては、女子は、男子に比して、本音で友人と付き合えていると感じていることがうかがわれ、若年犯罪者においては、男性は、女性に比して友人関係に距離を置いていることがうかがわれる。

2-2-4図 友人との関係（経年比較等）



注 1 各項目を選択した者の比率である。

2 上限のない複数回答である。

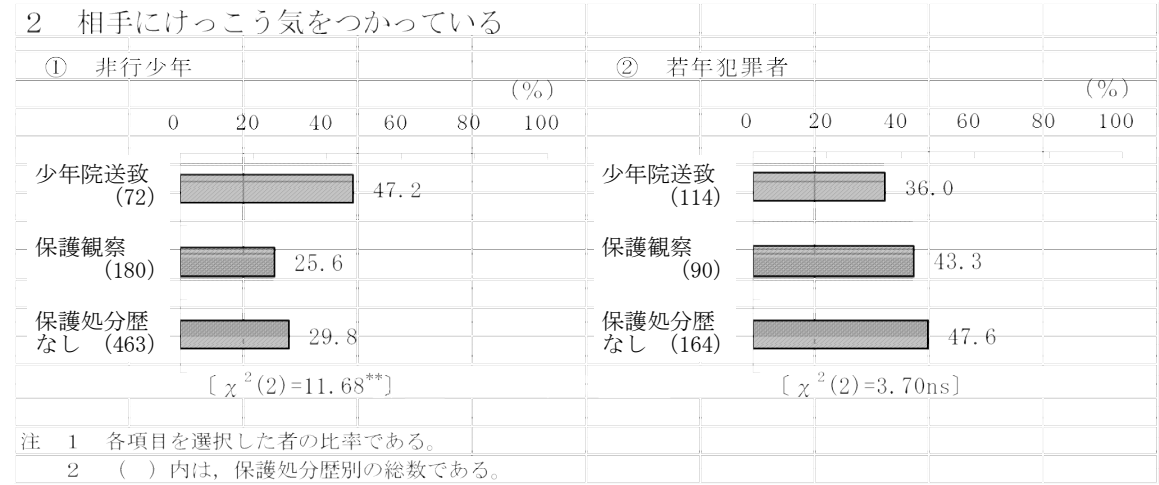


イ 保護処分歴別の比較

2-2-5図は、今回調査において、非行少年・若年犯罪者別に、友人との関係について保護処分歴別にクロス集計を行い、回答状況に有意差のあった項目について、その選択率を見たものである。

若年犯罪者においては、保護処分歴による有意差は見られず、非行少年において、「相手にけっこう気をつけている」を選択した者の比率は、少年院送致歴を有する者において、有意に高かった。

2-2-5図 友人との関係（保護処分歴別）



(4) 大切な友人

Q5 あなたは、どんな友達が大事だと思いますか。次の中から、一番大事だと思う友達のタイプをひとつだけ選んで番号を記入してください。

1 いつもそばにいて相手になってくれる人

2 他の人にいえないことを聞いてくれる人

3 競争相手となって自分を伸ばしてくれる人

4 いろいろな情報を教えてくれる人

5 困ったときに助けてくれる人

6 興味や趣味が似ている人

ア 経年比較等

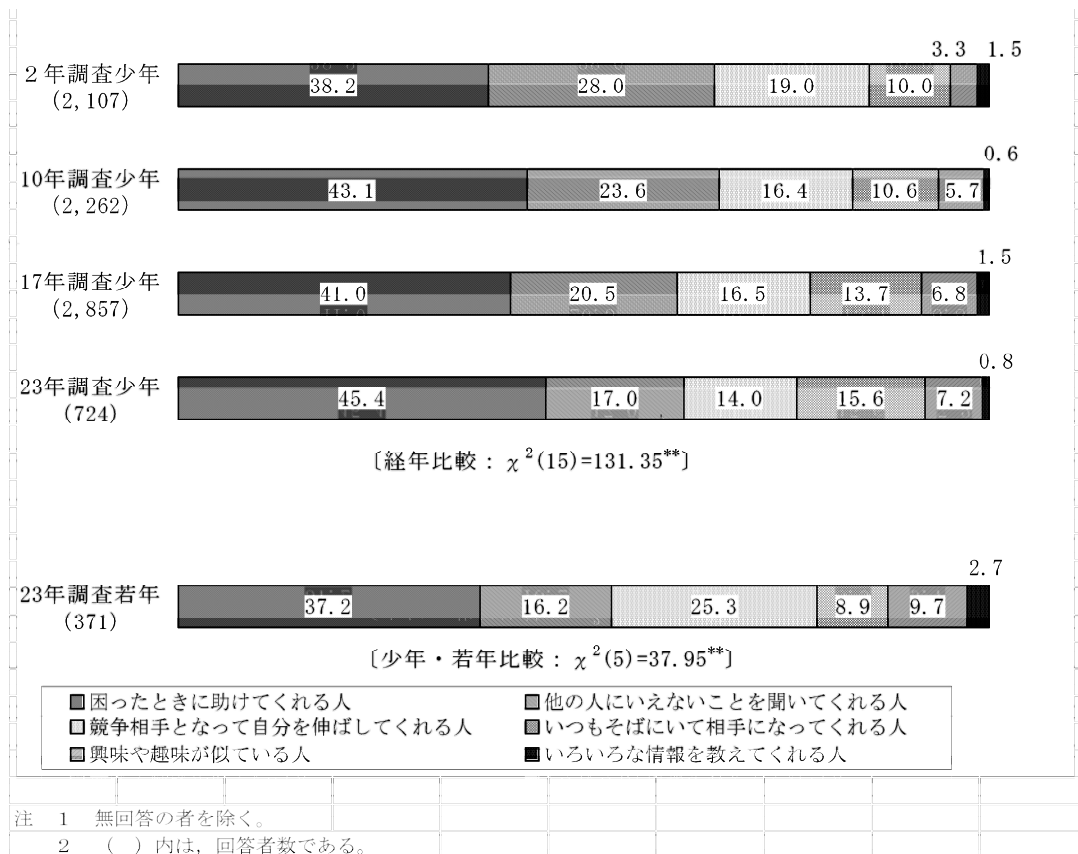
2-2-6図は、大切な友人に関する回答を経年比較したものである。いずれの調査においても、「困ったときに助けてくれる人」を選択した者の構成比が最も高く（今回調査において、45.4%）、次いで、「他の人にいえないことを聞いてくれる人」（同17.0%）で

あった。なお、これまで3位であった「競争相手となって自分を伸ばしてくれる人」に代わり、今回調査においては、「いつもそばにいて相手になってくれる人」が、3位（同15.6%）となった。また、「いつもそばにいて相手になってくれる人」、「興味や趣味が似ている人」の構成比が上昇傾向にあり、「他の人に言えないことを聞いてくれる人」、「競争相手になって自分を伸ばしてくれる人」が低下傾向にある。総じて、友人関係において、相談相手や競争相手よりも、ともに過ごす時間が長く、楽しみを共有できる関係を求める傾向が強まっていることがうかがわれる。

また、今回調査において、非行少年と若年犯罪者の選択状況を比較すると、若年犯罪者において、構成比が有意に高い項目は、「競争相手となって自分を伸ばしてくれる人」（非行少年14.0%，若年犯罪者25.3%）、「いろいろな情報を教えてくれる人」（同0.8%，2.7%）であり、逆に、非行少年において、構成比が有意に高い項目は、「いつもそばにいて相手になってくれる人」（同15.6%，8.9%）、「困ったときに助けてくれる人」（同45.4%，37.2%）であった。

なお、非行少年、若年犯罪者それぞれについて、男女の差を見たところ、非行少年においても、若年犯罪者においても、有意差はなかった（それぞれ、 $\chi^2(5) = 6.58ns$ ， $\chi^2(5) = 8.59ns$ ）。

2-2-6図 大切な友人（経年比較等）



## イ 保護処分歴別の比較

2-2-7図は、今回調査において、大切な友人の選択状況を、非行少年・若年犯罪者別、保護処分歴別に見たものである。若年犯罪者においては、保護観察歴を有する者について、「競争相手となって自分を伸ばしてくれる人」の構成比が、少年院送致歴を有する者について、「困ったときに助けてくれる人」の構成比が、それぞれ有意に高かった。非行少年においては、保護処分歴による有意差は見られなかった。

2-2-7図 大切な友人（保護処分歴別）

